

## 『インプラント患者への対応』

—上質な患者対応を目指して—

講師：田内友貴(歯科衛生士)

日時：平成26年3月23日(日)

場所：東京／ハービスプラザ5F



八木延子  
(京都府)

平畑なつき  
(滋賀県)

## 明日からの臨床に 役立てていきたい

八木延子

平成26年3月23日(日)ハービスプラザ5Fにて、セミナーを受講させていただきました。

講師は歯科衛生士の田内友貴先生で、タイトルは「インプラント患者への対応～上質な患者対応を目指して～」でした。

まず、高額医療とされているインプラント治療を受けられる患者様の特徴について話されました。一般的に治療の期待値は高く、情報が豊富、特別扱いに慣れていらっしゃる患者様が多くいらっしゃるのです。そのような患者様に対して、私たち医療人が医療だけでなく「ホスピタリティ＝もてなす」を持つことが大切だと話されました。

本物のホスピタリティを行うには、患者様が何を

求めているか分析し、専門的な治療に対する補足説明が出来るよう知識を備えること。また、自分自身が実際に一流の接客などを受ける場所に足を運び、観察すること。無意識に自分のスクリーニングにかけて接客レベルを落としていないかなどをポイントとされていました。

また、より良い診療を行うにあたって、カルテを整えることの重要性についても話されました。高度なインプラント治療に対して、S(主訴)・O(客観的データ)・A(評価)・P(治療計画)これらをまとめることにより、スタッフ間での共通の理解が深まり、ドクターの行われる治療にストレスのない事前準備やサポートを行え、また患者様への治療説明や補足説明も行いやすくなります。これらは、患者様の恐怖心緩和やラポール形成にも繋がる重要なことだと感じました。

インプラントの埋入後、上部構造がセットされ



れば、歯科衛生士が大きく関わるインプラントのメンテナンスに入ります。そこでの重要性について改めて確認させていただきました。

メンテナンスを行うにあたり、インプラントと天然歯の違いを理解しなければならないこと。インプラントは歯根膜がなく、コラーゲン繊維がインプラントの長軸と平行に走行し、上皮との走行がないこと。インプラントは側方圧に弱く、インプラント周囲の組織は、炎症細胞が混在し、再生細胞が少なく、炎症が起りやすい組織であることなどです。そのため患者様のホームケアとメンテナンスがとても重要になってきます。

メンテナンスを行うデバイスの種類として超音波スケーラーがあります。ピエゾ方式のほかに、マグネット方式の存在と違いについて教わりました。

メンテナンスについては、インプラント周囲組織の炎症の有無、プロービング時の出血・排膿の有無、上部構造の破折や磨耗の有無、コンタクトの状態、動揺の有無、側方干渉の有無、インプラント周囲の清掃状態など、どこにポイントをおいて診ていくか実際に症例を見ながら自分ならどのように行うか考え、先生のメンテナンスの方法を聞く事ができました。

今回のセミナーを受講して、患者様お一人お一人、口腔内も生活環境も違います。それぞれの状態を把握し、口腔内に炎症や問題点があれば見逃さずにドクターに伝えること。また、ドクターと患者様との間に入り、少しでもリラックスしながら受診していただけるように心掛けたいと感じました。

受講させていただいたことに感謝すると共に、明日からの臨床に役立てていきたいと思えます。

## 歯科受診される患者様のメンタルフォローを目指して

平畑なつき

今回の研修では、まず最初にインプラントに関する概要から始まり、メンテナンスで気を付けたいこと、インプラントをされる患者様の性格、考え方を学びました。

基本的なことではありますが補綴別のPMTCペーストの使い分けやスケーラーチップの当て方でこんなにも痛みの感じ方が違うということ、ちょっとした言葉がけひとつで相手が受け取る印象が変わってくるということも学ぶことができました。

福島原発がきっかけでレントゲンやCTの被ばく量を気にされて、今までにも「体に本当に害はないのですか？」と実際に何度か質問を受けたことがあります。特にDr.に聞きづらい患者様は私をはじめ、多くの方が女性スタッフに質問されるケースが非常に多く感じるので、そんな時にDr.にすべてを委ねるのではなく、我々スタッフも積極的に患者様にお話することができて、いざDr.が来た時にリラックスして治療に臨んでいただければ、願ったりかなったりな環境だと思うので、様々な質問にお答えできるよう様々な引き出しを作っておくことが今後の課題だと思いました。

どんなスタッフでも尻込みせずにカウンセリングを実践できるようにするため、講義中でもスライドに出てきた被ばく量の具体的な数値の画像などもカウンセリングツールに取り込んだり、スタッフ同士で意見を出し合って適したツールづくりをするのもいい方法だと思いました。

そうした取り組みを綿密に行うことで信頼性が増し、スタッフのやりがいに繋がると思います。

歯科衛生士は歯科助手とはちがい直接口腔内を触ることができますが、田内先生のお話を聞いていると私はそんなにも必死にはなっていないくて、口腔内チェックを終えた後はDr.にお任せ…な状態になってしまっていたことを感じました。本格的な治療はやはりDr.の仕事ではありますが、予防などの面ではまさに自分の力を発揮できる場所だと思いますし、問題のあるところを見つけてDr.への手助けができる職種だと思うので、「この患者様を助けるんだ!」というアツイ思いで、一医療人として今後対応していきたいと思えます。

また、歯科受診される患者様のメンタルフォローができ、患者様にとって身近な存在かつ「ほっ」とする対応ができる歯科衛生士を目指して今後も精進していきたいと思えます。本当にありがとうございました。